

予期せぬ事態のなかで、春セメスターが終わろうとしています。新型コロナウイルスのさまざまな影響下にある皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

本学でも、急遽スタートしたオンライン授業ではありますが、この新しい試みが大学教育のあり方について見直すよい機会となればと願っています。

さて、学生のみならず、大学での授業再開を希望する声が届いています。

現在のオンライン環境は十分ではなく、画面上に提示できる情報には制約があり、受講者間のグループワークなども難しく、もどかしい限りです。また、狭い

画面に集中しての授業は、かなり疲れます。その一方で、これまで修学へのハードルが高かった学生さんのなかには、確実に修学の機会を得ている人もいるようです。電車などの通学の難しさ、学内の雑多な情報過多、聞きたくない周囲の声など。大学という場には学びを妨げる要素もあつたよう

です。授業に関係のない雑音が入りにくいという点は、オンラインの利点かもしれません。

では、オンライン環境さえ整えば大学という場は要らなくなってしまうのでしょうか。多様な人が集う大学という場では、求めてもいない雑多な出来事に身を晒すことになり、不要だと簡単にスイッチを切ることもでき

学生相談室

だより **109**

カウンセラー・教授 改田明子

よう。残念ながら、オンラインの世界はそのような偶然の出会いに乏しいように思えるのです。

学生相談室では、みなさんが、この時空の共有の両面に向かい合いながら、創意工夫により学生生活を展開することを応援します。大学で皆さんにお会いできる日が早く来ることを祈っています。